

LMSで学生に答案を返却するツール

LMSには、学生に文書ファイルなどを答案として提出させる「課題」の機能があります。課題に提出させた答案に対しては、学生に個別フィードバックを返すことができます。課題に提出させた答案でなくとも、LMSの課題を通じて学生に答案を返却することができるツールが用意されています。今回はそのツールをご紹介します。

○課題答案一括アップロード

(学生のファイルをLMSの課題で一括返却)

学生一人一人に異なるファイルを一括で渡すツールです。学生に渡すファイルをZIPファイルにまとめてこのツールでアップロードすると、LMSのコースに設置された課題に答案として登録され、学生はその課題や成績表からファイルを開覧したりダウンロードすることが可能です。

課題答案一括アップロードを利用するためには、答案のZIPファイルのほかに、どの学生にどのファイルを渡すかの対応を記載した一覧表が必要です。一覧表に点数やコメントを記載し、学生にフィードバックすることも可能です。具体的な使用方法は、LMSサポートサイト (<http://www.lt-lab.teikyo-u.ac.jp/lms-ss/>)の「マニュアル」ページ内「教員向けマニュアル」の「学生の答案をLMSの課題で一括返却する(課題答案一括アップロード)」をご参照ください。

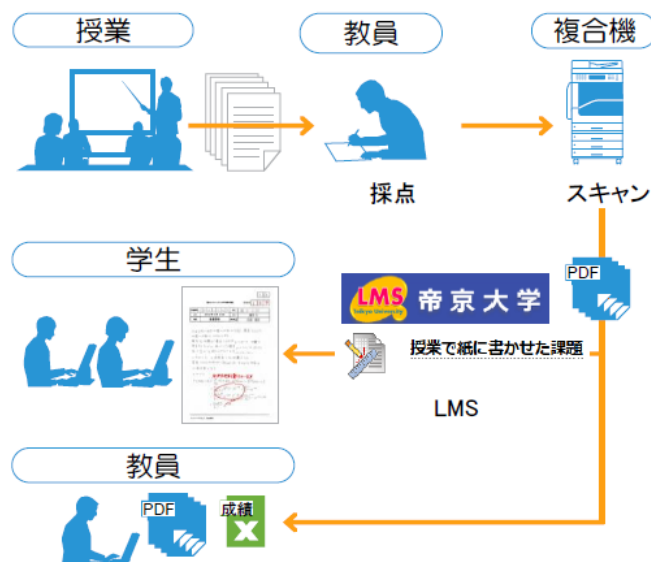
The screenshot shows the LMS interface for Teikyo University. At the top, there's a header with the LMS logo and '帝京大学'. Below it, there's a section for '課題1' (Assignment 1). A table lists student answers with columns for 'ユーザ名' (User Name), '氏名' (Name), '答案ファイル名' (Answer File Name), '点数' (Score), and 'フィードバック' (Feedback). Two rows are visible: one for user 123456 (豊郷花子) with a score of 8/10, and another for user 132546 (宇都宮一郎) with a score of 5/10. A red circle highlights a ZIP file icon in the table. To the right, there's a text box with feedback for the first student: 「ほぼ正解ですが、入力か0のとき正しく動作しません。赤字でマークした行の条件を確認して下さい。」 (Almost correct, but it doesn't work correctly when input is 0. Please check the conditions marked in red.) For the second student, the feedback says: 「入力値を変えて実行すると、エラーが発生します。原因になっている箇所にマークを入れたので、確認して下さい。」 (When you change the input value and execute, an error occurs. I marked the cause, so please check it.)

○授業支援ボックス

(学生の紙文書をLMSに一括登録)

紙文書をLMSの課題に一括登録するツールで、現在宇都宮キャンパスと八王子キャンパスに導入されています。テストの解答用紙やミニツツペーパーなど紙文書による答案を専用の複合機でスキャンすると、Excelファイルの名簿への成績転記と答案の電子ファイル(PDF)化が自動実行されるとともに、LMSの課題に答案が登録されます。

授業支援ボックスを利用するためには、専用のフォームを印刷した用紙を学生に配布する必要があります。フォームはWordの文書ファイルで、LMSのホーム画面右下にある「宇都宮キャンパス向けサービス」または「八王子キャンパス向けサービス」からダウンロードすることができます。これをLT開発室(宇都宮キャンパス)か情報処理センター(八王子キャンパス)にある複合機でスキャンすることで、電子化とLMSへの登録が行われます。具体的な使用方法は、LT開発室ウェブサイト (<http://www.lt-lab.teikyo-u.ac.jp>)の「Tools & Systems」ページ内「授業支援ボックス」をご参照ください。また、ニューズレター第46号で活用事例を紹介していますので、あわせてご参照ください。



LMS活用事例レポート

教育と研究におけるテスト機能の活用例



今回は、医療技術学部柔道整復学科の大塚博史先生にお話を伺います。

LT どのようにLMSを使われているのでしょうか。

大塚先生 2年次の必修科目の「骨損傷学2」と「骨損傷治療実習1」で利用しています。配布物をLMSに掲示している

ので、欠席者もそこで資料を入手できるようにしています。「骨損傷学2」では、学生と教員が前回の内容理解度を把握するために、授業時間の最初の10分を使い小テストを実施しています。小テストの内容は期末試験の範囲にも含まれるので、学生も理解度の低かった箇所を復習して期末試験に備えることができます。また、小テストの初回受験の点数を期末評価に加えています。

LT 使ってみていかがでしょうか。

大塚先生 授業前の小テストの実施は期末の成績評価にもつながるため、学生のモチベーションや前回授業の内容理解度把握にもなり、学生から一定の評価を得ています。

LT 授業以外でも活用されているそうですが。

大塚先生 はい。私は、慢性腰痛者の運動特性について研究*をしており、そこでもLMSを利用しています。腰痛者の運動を三次元動作解析装置(VICON)で計測して、運動学的分析を行うといったものです。そのために、腰痛のアンケート調査を実施し、学生の中から「慢性腰痛者」を見つけて研究協力をお願いしています。2018年度には、このアンケート調査をLMSのテスト機能を使って、300名の学生に対して実施しました。

LT LMSには匿名のアンケート機能もありますが、テスト機能を使われたんですね。

大塚先生 いくつかのアンケートを組み合わせ、「慢性腰痛者」を抽出し、対象者に直接、被験者として研究協力依頼をしていますので、匿名のアンケート機能ではなく、個人が特定できるテスト機能を用いました。アンケート上の質問の形式としては、選択式と一部自由記述を使っています。

LT アンケートを実施してみているのでしょうか。

大塚先生 以前に紙ベースで同じ内容のアンケートを行っていました。アンケートの実施にかかる時間は大きく変化はありませんでしたが、実施後の集計にかかる時間が圧倒的に短縮できました。紙ベースで行った際には集計に1か月近くかかっていましたが、今回、LMSを活用させていただき集計に要した時間は3日でした。本当に助かっています。

LT 今後はどのようなことをお考えでしょうか。

大塚先生 個人的な課題としては、反転授業への応用や授業動画のLMSへのアップなどがあります。また、研究のためのアンケート調査については、アンケートの実施に当たり被験者（学生）の負担を少なく、かつ、LMS上でもわかり易い表現やアンケートの構成にできるように修正を加えていきたいと考えています。

質問 18

腰痛が原因で医療機関を受診しましたか？

1. 受診した
 2. 受診していない

質問 19

「質問18」に「1. 受診した」と答えた方に質問します。

医師から診断名を受けた方は、差し支えなければ診断名を教えてください。

診断名:

テスト機能を用いたアンケートの例

* 若年男性・非特異性慢性腰痛者の単脚立位における姿勢制御戦略（帝倫17-202号）

LMS Tips

- ◆ コースへのユーザ登録
- ◆ 課題の提出状況確認や代理提出を行う～課題ユーティリティ～

※上記のTipsをクリックすると詳細が開きます

Tipsは帝京大学LMSサポートサイトからご覧いただけます。（<http://www.LT-Lab.teikyo-u.ac.jp/lms-ss/>）

編集後記

3月も後半となり暖かな日が多くなってきました。梅は咲いたが桜はまだかと楽しみにしていると、宇都宮城址公園の河津桜が満開になったとの新聞記事を読みました。新入生を迎えるころには、キャンパスの桜も見頃かな・・・？今年はいろいろな所に桜を見に行きたいです。

鈴木邦江さんが11月からLT開発室の一員となりました。みんなで頑張っていきます。p(^_^)q（渡部）

帝京大学 ラーニングテクノロジー開発室 宇都宮キャンパス本部棟2号館2F 203室

◇連絡先： TEL 028-627-7243（直通） / Mail LT-Support@LT-Lab.teikyo-u.ac.jp

◇室員： 渡辺博芳（室長）、小島一晃、高井久美子、古川文人、高野芳恵、渡部里美、鈴木邦江、萬谷美紀

